

開催告知

2019年度
「第21回首都圏支部総会」
2019年6月22日(土)
16:00~19:40
(受付開始 15:30~)
於:丸の内ポールスター
(三菱信託銀行本店ビルB1
JR東京駅丸の内北口から徒歩5分)

●特別講演●

講師:土屋 文男 氏
(50年法卒) 弁護士
を予定しております。

皆さん総会に出席しましょう!!

人文・法・経済学部同窓会首
都圏支部会員・ご家族の皆様、
新年明けましておめでとうござ
います。「平成」の元号もいよ
いよ本年4月で終わりとなりま
す。昭和生まれも満年齢で93歳
を最高齢筆頭に30歳が最低年令
となり、昭和も遠くなりました
が、平成生まれも今年の4月ま
です。新しい元号がまた、誕



昨年の活動を振り返って

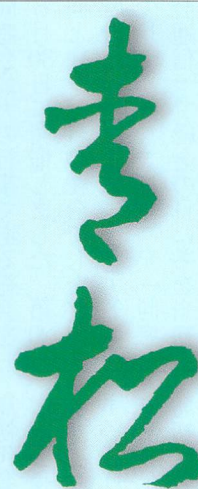
首都圏支部長(昭和41年経済卒)

増田 宏一

生します。日頃は煩わしく感じ
られる元号も段々と味わい深く
感じてるのも歳を取ったから
でしょうか?

ところで、昨年の会報「青松
29号」では一昨年11月の第2回
理事会での議論「同窓会活動の
担い手不足」という重要課題に
ついてご紹介させていただきま
した。しかし、幸いなことに昨
年から若手の方に副支部長など
の形で同窓会活動にご参加をい
ただくことが出来ました。

また、村山前支部長から引き
継ぎこの4月で10年目に入る私
の支部長職も加澤正樹氏(昭和
48年法卒)に引き受けていただ
くことになりました。一昨年11
月に支部長提案と言う乱暴な形
で執行部の後継者問題を理事会
で喧々諤々ご議論いただいたこ



新潟大学
人文・法・経済学部
同窓会
首都圏支部 同窓会報

第31号(2019年1月発行)



編集責任者 山我 正明
事務局 〒204-0023
東京都清瀬市竹丘 3-21-12
E-メール:
yamaga@smile.odn.ne.jp
■ホームページ首都圏支部伝言板
http://n3-doso.niigata-inet.or.jp/
doso/hyouji2.php3

とも大きな契機になったのでは
ないかと思っております。

また、本部理事会では保留中
の補助金削減については、当面
議論凍結になっております。同
窓会活動を巡る状況には楽観は



平成30年度第2回理事会報告
事務局長 山崎 彌代一(昭和44年経済卒)

昨年11月19日(月)、25名の
理事が出席して平成30年度第2
回理事会が丸の内ポールスター
で開催されました。

増田支部長の挨拶のあと議事
に入りました。審議案件は以下
の4件でした。

- ①平成30年度事業予算執行状況
- ②平成30年度支部活動実績と今
後の予定
- ③平成31年度(第21回)首都圏
支部総会
- ④理事の推薦及び退任

①について9月末時点で年会
費収入実績が予算30万円に対し

出来ませんが、取り巻く環境は
明るい方向に好転しているよう
に感じます。同窓会活動は同窓
生の交流と懇親を基本に、大学
及び現役在校生の応援・支援を
していく事ではないかと考えて
おります。本年もまた、多くの
同窓生の皆様にご参加いただき、
おひとりでも多くお集まりいた
だけるような企画を進めて参り
たいと存じます。重ねて同窓会
活動にご参加くださるよう宜し
くお願い申し上げます。

会員とご家族の皆様の本年の
ご多幸とご活躍をご祈念してご
挨拶とさせていただきます。

約3分の2であること、支出予
算全体の執行率は45%であるこ
と、②について昨年6月に開催
した第20回総会の出席者は46名
と少なかったこと、前年度活動
実績のなかった首都圏五十嵐会
が12月に会合を持つこと、③に
ついて今年6月22日に開催する
こと、講演会講師を弁護士とし
て活躍している土屋文男さん(昭
和50年法卒)にお願いすること、
④について石井正一さん(昭和48
年経済卒)と樋口加代子さん(昭
和52年法卒)を新しく理事に推
薦し吉田研一さん(昭和37年人文



平成30年度第2回理事会(2018年11月19日 丸の内ポールスター)

卒)と相馬崇弘さん(平成15年
経済卒)が退任することが提案
され審議の後承認されました。
次に報告事項に移りました。

①支部会報「青松」の発送を
従前は平日に有志が増田支部長
の事務所会議室で行っていたが
多くの人が、特に平日働いてい
る若手の会員が参加しやすくなる
ため31号から週末に新潟大学東
京事務所で行うこと、②同好会
活動のうち同人誌「はぎぎ」を
しばらく休刊すること、③11月
17日に本部で常任理事会があり
31年度から支部間交流事業が廃
止となったこと、会員名簿の発
行が検討されてきたが見送りと
なったこと、報告がありました。
記念撮影の後、飯田伸行さん

(第1面より続く)

(昭和39年経済卒)の乾杯の音頭で懇親会が始まり前田貞芳さん

平成30年度の支部活動

事務局長 山崎彌代一

平成30年度後半の活動予定は以下のとおりです。

11月7日 常任理事会(第2回理事会準備)

11月11日 第81回青松ウオーキング
11月15日 第16回青松芝楽会(ゴルフ)11月17日 本部常任理事会
11月19日 第2回理事会12月7日 首都圏五十嵐会
12月23日 支部会報青松第31号発送1月6日 第82回青松ウオーキング
千住七福神巡り

2月中旬 常任理事会(事業計画と予算編成)

2月中旬 首都圏五十嵐会
3月上旬 第83回青松ウオーキングまだ3カ月を残しています
が、今年度の活動を振り返ると同窓会最大の行事である総会を6月30日に開催しました。第20回という節目の総会でしたが出席者は46名と昨年より7名減少しました。「青松」や「同窓会通信」で総会の日を当初誤ってお伝えしたため都合がつかなくなった方もいらっしゃいましたが、それを考慮しても出

(昭和39年経済卒)の締めで開きとなりました。

席者が減少したのは残念です。

また支部会報「青松」の発送作業はこれまで増田支部長の会計事務所の会議室をお借りして有志が平日に行っていました。が、多くの人に参加してもら



首都圏支部 副支部長退任にあたって

桑原 興一 (昭和45年経済卒)

うということ、(特にまだ働いている会員が参加出来るよう)この青松31号から週末にJR田町駅近くの新潟大学東京事務所で行うことにしました。

今年も五月下旬の週末に32号発送作業を東京事務所で行いますので多くの方の参加をお願いします。

2011年度から7年間、首都圏支部の副支部長の役を担当させていただきました。最初の3年間は広報担当として主に会報青松の編集に携わり、次の4年は会計を担当し、2017年3月末に退任させていただきました。主担当業務以外にも色々なプロジェクトに参画させていただきました。その中で最も印象深いものは、首都圏支部の歴史をまとめた「首都圏支部の歩み」の編集でありました。「首都圏支部の歩み」は、1988年の間島初代会長から村山会長を経て増田会長に至る25年間の首都圏支部の歴史をまとめたものです。2011年当時には首都圏支部発足から25年が経過し、間島初代会長も既にお亡くなりになっており、その他の主要なメンバーもご高齢で支部の集まりからも退いておられまし

た。このままさらに年数を重ねると、首都圏支部の歩みの記録や記憶が散逸してしまうとの懸念が役員の中で議論され、これまでの活動の記録をまとめることの課題を共有しました。折しも2013年は首都圏支部創立25周年の節目の年であり、本部同窓会設立60周年記念行事の一環として、「首都圏支部の歩み」の編集を申請いたしました。この申請が認められ、特別予算をいただいて、編集を行うことになりました。発足当時の主要なメンバーや当時を知る諸先輩からご寄稿や情報をいただき、「首都圏支部の歩み」の小冊子の発刊となりました。

次に忘れられないことは、本部の個人情報保護検討委員会に参加し、個人情報保護規定の制定を行ったことです。2014年の当時、日本では個人情報の

流出事件が相次ぎ、世間の関心が高まっていました。首都圏支部においても、個人情報の取り扱いについて規律を整えるべきとの問題提起がなされました。議論の末、同窓会としては個人情報保護規定を整備すべきとの大方の意見でありましたが、それは首都圏支部が独自で行うのではなく、むしろ本部において同窓会全体に適用する規定を制定すべきとの意見でまとまりました。

この結論を踏まえて、本部に対して意見具申と提案を行ったところ、本部はその提案を受け入れ、個人情報保護検討委員会を設置することになりました。

この問題は首都圏支部が提起したので、言い出しっぺにお鉢が回って来て、結局私が全支部を代表してこの委員会に参加する

【青松益講座】その15

「人は何のために遺言を書くのか」

加澤 正樹 (昭和48年法卒)



公証人をして2年目くらいの時の書替案件でしたが、「妻に全部相続させる」という主位的遺言の予備的遺言を「長男が結婚したら財産の大部分を長男に相続させるが、結婚しなかったら次男と半分ずつ」と書いてほしいと嘱託人が強く希望した。結婚し孫が生まれてくれば嬉しいというのが親の気持ちでしょうが、結

ことになりました。

このようにこの7年間で、私なりに精一杯の仕事をさせていいただきましたので、ここで次の方にお任せして、首都圏支部のさらなる発展をさせていただきたいと考えました。幸いにも、堀敏雄さんに後任を引き受けていただき、畠山力さんが常任理事に加わってくださることになり、大変ありがたいことであり、好ましいことと思います。

この7年間、首都圏支部の皆様と一緒に仕事をやらせていただき、大変貴重な体験をさせていただきました。常任理事の方々はもちろん、諸先輩の方々には、助言やご指導をいただき、大いに元氣付けられました。常任理事退任に当たり、改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

婚は本人の意思ですから、相続の条件とするのは「長男に結婚を強要する」に等しく公正証書にはふさわしくないとそのときは思いました。お互いに自説を曲げないので「申し訳ないが冷却期間を置きましょう」ということで次回打合わせ予定日を決め、その日は結論を出さずに帰ってもらいました。

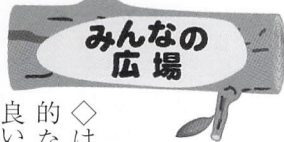
その後「父が転んで骨折し入院しました。延期してください」という電話があり、半年後には帰らぬ人となってしまいました。結局、主位的遺言で妻に全財産の相続がなされ、実害は生じなかったのですが、考えさせられる案件でした。本人の希望に沿って幸せな気持ちで旅立つてもらったのが良かったのか。問題遺言(長男は遺産目当てで結婚したといわれかねない)は断固書くべきではなかったのか、今も結論が付きません。

遺言者が、子供全員に平等に財産を分けることを強く希望することが多いですが、それは無理です。これまでの人生で子供たちに本当に平等に接してきたかが問題だからです。子供は、自分がもつたことはかなり覚えています(忘れたふりはします)。しかし、兄弟の分は分かります。

ません。自分が親にしてあげたことは全部覚えていますが、他の兄弟が何をしたかは把握できていません。親は、子供に何かしてやるときに、他の子供には黙っています。

これまでの不平等を遺言で一気に解決するのは、難しいと思います。それに、本人はいつ死ぬのか分からないのですから。このような状態で、平等な財産分けと親が思いこんでいる遺言を書くのは、無駄な努力です。「細かい計算は無理なのです」と耳元で囁きたい。

生きているうちにこれまでの不平等を解消すべく子に接すること、愛情が足りなかった子供に経済的に恵まれない子供にはできるだけ補ってやるのが今できることなのではありませんか。そして、残った分は均分に分けるのが一番いいのです。多分――



批判よりも提言を、 提言よりも実行を

飯田 伸行 (昭和39年経済卒)

◇はじめに 近頃衝撃的な事件が多発する。良い例としては、去る八月半ばに、自宅付近で親とはぐれた2歳男児が、尾畠春夫氏なる、言わば、「ボランティアの星」たるべき人物に、あつと言う間に、モノ

の見事に救出され、貴重な、かつ、とびきり若い(御年二歳)未来の人生を確保した事件がある。(こ本人は、若すぎてまだ深く自覚すまいが)。

◇前記を「良い例」とすれば、その逆に「悪い例」の典型ともいえるべき日本ボクシング連盟(協会)

山根会長の言行に関する幾多の重畳の疑問がある。因みに尾畠山根両者及び私の唯一の共通点としては、(たまたまであるが)いずれも年齢78歳前後ということにふと思いが至った。

◇これに関し、ある年来の友人Y氏の曰く「この世代の人物は、何故か善人が悪人かに別れやすい。これに対し当方答えて曰く、「思いますに、過ぐる太平洋戦争(大東亜戦争)での国を思い、家族を思い、戦没した数多陸海の軍人を何故か彷彿させますね」。更に因むと、年齢78歳前後のたまたま三者は、たまたま生まれが5年ないし10年遅く生まれたので、比較的平穩無事にここまで生きられたと(少なくとも私は傘寿に手の届くまでの人生を得た)との思いはある。

◇言いたいことは只一つ。「物事をただ批判するに止めず、出来れば提言をしたい。更に出来れば、提言よりも少しでも実行を伴いたい」。この点で尾畠春夫氏の、(少なくとも見ても)ここ1カ月程度の一切の言行は、その生き方を含めて言わず語らずに、こうしたことを深く連想させ、考えさせるものがあつた。

実感として2018年8月21日、朝のTV番組で見た、この二歳児の表情も動作も単純には赤ん坊に近い。こうした人物が、或いは、70年以上を経て今回救助した尾畠さんのような大人にな

らぬとも限るまい。この場合「他山の石」か「不言実行」か、い



同窓会活動の活性化について

畠山 力 (昭和54年経済卒)

5月の「青松」にも書かせていただきましたが、あえて自身の頭の整理も兼ねて「同窓会活動の活性化について」考えて見ました。あくまで私の主観ですが、首都圏同窓会に来る方を年代別にみてみると「若い人や現役世代」は仕事に関連した情報や人脈を求めて、「退職世代」は同窓生同士の趣味や繋がりを求めてという事が動機かもしれません。

実際、大学時代のクラブやゼミ単位では結構頻繁に会っているという事もよく聞きます。多様なニーズに最大公約数的な回答を用意するのは、同窓会にはちよつと無理なような気がします。むしろ、そういった様々なニーズがある方が「言い出しっぺ」になつてもらい、それぞれのやりた

い事を企画・実行していただくというのもありかなと思います。実はコレ、福岡大学の首都圏同窓会がやっているらしいのです。Facebookのグループ機能を使つて、メンバーが様々な情報を共有化しかつ発信して同窓会内で各種イベントを行っているそうです。同窓会はその把握・取りまとめと、年1〜2回、そういった

たグループの顔合わせを企画する――と言った形になつたらいいなと思います。同窓会に行っても誰も知り合いないのでは、なかなか行きづらいというお話もよくききます。SNSがここまで発達し、FacebookやLineは皆さん使っていると思います。私のようなデジタル・デバイスであっても、もう避けてはられない状況ですし、むしろ積極的に利用していくのが良いかなと思っています。



同人誌「はぎ」休刊の お知らせ

同人誌「はぎ」は年2回の発行で今年6月に第11号を発行し、同窓生の皆様にCDを送付してきました。3名の編集委員でやってまいりましたが、委員の負担が大きき誠に残念ではありますがしばらく休刊致すこととなりましたのでお知らせします。

この間まる5年予、多くの投稿者及び関係の皆様感謝申し上げます。

森宗幸夫 (昭和44年人文卒)

第15回青松芝楽会ゴルフ

服部 和夫（昭和38年法卒）

5月15日（火）第15回青松芝楽会ゴルフコンペが五月晴の千葉県藤ヶ谷カントリークラブで16人の会員が集まり開催されました。

結果は堀敏雄さんがベストグロスの成績で優勝。準優勝は初参加の寺山聖さん、第三位は新潟から参加された相馬潔さんでした。

青松芝楽会ゴルフは第1回コンペが2010年8月30日に船橋カントリークラブで開催され今回は15回目の記念大会となりました。会長は村山弘義さんです。今までの状況を簡単にまとめますと首都圏は元より新潟からも多くの方が参加され、春秋の2回楽しく、参加された数は268人となります。最高齢者は昭和30年卒の荻部弘平さんと、工学部から参加の大石通明さん。女性には5人が参加されております。



第15回芝楽会（2018年5月15日 藤ヶ谷カントリークラブ）

ゴルフ会場は主に藤ヶ谷CC、若洲GLですが、船橋CC、紫CC、入間CCでも行われました。

渡辺千鶴さん、相馬潔さん、市川瑞夫さん、田島富士夫さん、故・小柴昭英さんが複数回の優勝をされております。

このゴルフコンペはどなたでも参加できますから皆様誘い合つて多くの人が来られますよう願っています。尚、賞品は幹事が準備しておりますが、皆様からのユニークで珍しいそして貴重な篤志をいただいております。大変楽しみなコンペとなっております。

第16回青松芝楽会ゴルフ

桑原 興一（昭和45年経済卒）

11月15日（木）、第16回青松芝楽会が千葉県野田市の紫カントリークラブ紫あやめ36EASTコースで開催されました。結果は渡辺千鶴さんが4度目の優勝に輝き、井上壽長さんが準優勝、諸橋ヒサ子さんが第3位の成績を納められました。天気は快晴で、風もなく気温も快適でゴルフに最適な環境の中でプレーを楽しむことができました。今回は女性1名を含めた合計11名の参加でしたが、いつものメンバーの中には腰痛などの体調不良によりやむなく欠場される方もあり、少々ごんまりとしたコンペとなりました。それでも参加いただいたメンバーは皆元気一杯、グロス90台は3名、100台は5名で、高平均年齢を考慮すると素晴らしい成績だったのではないのでしょうか。平均寿命100歳を見据えて、「80歳未満はまだ若僧」として、

ゴルフ会場は主に藤ヶ谷CC、若洲GLですが、船橋CC、紫CC、入間CCでも行われました。渡辺千鶴さん、相馬潔さん、市川瑞夫さん、田島富士夫さん、故・小柴昭英さんが複数回の優勝をされております。このゴルフコンペはどなたでも参加できますから皆様誘い合つて多くの人が来られますよう願っています。尚、賞品は幹事が準備しておりますが、皆様からのユニークで珍しいそして貴重な篤志をいただいております。大変楽しみなコンペとなっております。

青松ウォーキングの報告

山我 正明（昭和40年経済卒）

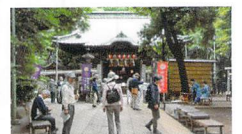
78回からの歩いたコースと参加者数を報告します。

第78回 戸越公園を歩く

◇平成30年5月13日
参加者19名（うち女性7名）

ゴールデンウィーク明けの日曜日に戸越銀座、戸越八幡神社、戸越公園から大井町まで歩きました。細長い真つぐの谷間に日本で初めて銀座を冠した長い商店街をぶらぶらと散歩しながら途中で右に折れて緩やかな坂を登れば戸越村の総鎮守戸越八幡社につきます。境内では2年に1回という祭りのお囃子の稽古をしていました。神社を出て戸越公園に向かいます。江戸時代にはこのあたり一帯の広い地域が、肥後熊本藩細川家の下屋敷だったそうです。その部が区立の公園になっています。池を中心とした庭園があり、江戸末期に建てられた薬医門が残っています。公園を出て東急大井町線

を横切り品川中央公園（児童祭りをやっていた）、品川区役所を過ぎるとやがてコース終点大井町駅に辿り着きます。



戸越八幡神社

第79回 武蔵小杉から等々力公園

◇平成30年7月8日
参加者14名（うち女性5名）

武蔵中原駅をスタートし、武蔵小杉の閑静な街並みに点在する古い神社を見ながら歩いていくとやがて等々力緑地に到着。ここは釣り池、ふるさとの森、野外彫刻などが点在し、四季園など自然とのふれあいを深める施設が揃っています。等々力緑地はサッカーリーグの川崎フロンターレのホームスタジアムとなっている陸上競技場のある広い緑地です。緑地内にある川崎の歴史や美術展示を行っている「川崎市市民ミュージアム」を見学した後、とどろきアリーナ前からバスでJR武蔵小杉駅に向かいました。歩行距離は3kmほど。のんびり歩きました。

第80回 板橋加賀藩下屋敷跡と石神

◇平成30年9月2日
参加者17名（うち女性6名）

加賀藩前田家の上屋敷跡は本郷の東大キャンパスとなっていますが、中山道の最初の宿場、板橋二帯の広い地域がその下屋敷となっています。今は学校や公共施設としていくつかの公園となっています。今も加賀公園などの地名に残っています。王子新道に沿ってこれらいくつかの公園を巡りながら石神井川に出ま

す。昔はしょつちゅう洪水を起こすあばれ川だったそうですが今は河川改修で桜並木の遊歩道ができています。川に沿った音無親水公園や王子神社に参つて、すぐに王子駅です。

第81回 川崎海底トンネルを歩く

◇平成30年11月11日
参加者11名（うち女性4名）

今回はチョット変わったウォーキングで、海の中のトンネルを歩き、川崎港に浮かぶ人工島から東京湾の大パノラマを楽しみました。川崎港に浮かぶ東扇島は海釣りのメッカとして知られ、東京湾を間近に望むビュースポットでもあります。東京電力前でバスを降りてちどり公園へ。運河の向こうに東扇島が見えます。海底トンネルはこの運河の下を通っています。公園内の歩道入口からトンネルに入り、約1km歩いて東扇島へ。島のなかの物流倉庫街を進み、首都圏湾岸道路の高架をくぐって川崎マリエンへ。地上51mにある10階展望台から東京湾の大パノラマを楽しみました。お昼はバスで川崎駅まで戻り、焼肉のお店「とんちゃん亭」で懇親会を開きました。



川崎海底トンネル

第82回は2019年1月6日に恒例の七福神めぐりで、千住の七福神を巡る予定です。

ウォーキングに興味のある皆さんのご参加をお待ちしています。

お願い 今年度の会費がまだ未納の方は、同封の振込用紙で、年会費（二千円）をお振込ください。また、よろしくお願い致します。